

東を歩きまわりました。つてを求めて、行く先き先きでことわられました。みんな苦しかったのです。（学問をしたい）という思いでしゃにむに出て来た東京でしたが、おちつく家もみつかからないありさまでした。

またまたあちこちの家を転々としながらの、みじめな下僕生活げぼくに困りはてていました。

秋も深まったある日、思いあまつて野田のだ豁通ひろみちをたずねてみました。そのとき、「近いうちに、陸軍幼年生徒隊（のちの陸軍幼年学校）の入学試験があるから、受けてみてはどうか。」

と野田は言いました。この一言が五郎の運命をかえることになりました。

「軍人になることは、武士の子である君にとって、不服ではないと思うが。」この話を聞いて、五郎はとびあがりばかりによるこびました。学費が国から支給されることと、なによりも将来への見通しがもてたことが嬉うれしかったので